

## 一志病院の現状及び今後の一志病院を取り巻く環境の変化について

平成 27 年 9 月 29 日  
県 立 一 志 病 院

## はじめに

一志病院については、平成 22 年 3 月に策定された県立病院改革に関する基本方針において、「県立病院としては廃止し、ニーズに応えられる事業者へ移譲」という改革の方向性が示されました。しかし、その改革の実現に向けた工程では、「直ちに民間移譲の手続きを進めることは困難であることから、当分の間は県立県営で運営を行う」とされ、現在に至っています。この「当分の間は県立県営で運営を行う」という状況のなかでは、病院の将来を見据えた設備投資に対する予算や看護師など医療技術職員の確保が非常に難しくなっており、病院運営の支障となっているところです。

このため、県としては、病院を取り巻く環境の変化や家庭医を中心とした地域医療の取組成果や課題を踏まえながら、津市、三重大学及び地域の関係機関の方々とともに丁寧に協議を行い、一志病院のあるべき姿に関する議論を深めることで、今年度（平成 27 年度）中に一定の方向づけを行うこととしています。

## 1 一志病院の現状について

## (1) 家庭医を中心とした地域医療の取組

## ① 家庭医療

平成 19 年度から三重大学家庭医療学講座の協力を得ながら家庭医の診療体制を充実することにより、病気の治療だけでなく、予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスの安定的な提供に取り組むとともに、病院のホームページに病院の取組をトピックスとして掲載するなど、地域住民の皆さんなどに対する情報提供を積極的に行っています。

また、平成 24 年度から津市による寄附講座（津地域医療学講座）が三重大学に設置されたことに伴い、教育の場として一志病院の施設及び設備を提供することで診療体制が向上したことにより、津市健康保険竹原診療所（伊勢地地区への巡回診療を含む）への支援を毎週 4 回実施しているところです。

さらに、平成 26 年 9 月には、へき地診療所への代診医派遣等を行う「へき地医療拠点病院」の指定を受け、市外への代診医の派遣を行うなど県内他地域の医療の確保に係る支援を行っています。

【常勤医師数等】

(単位：人)

	家庭医療学講座からの医師派遣							津市寄附講座設置後			
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24.4	H24.9	H25	H26	H27
常勤医師数	3	4	5	5	5	6	6	5	7	6	6
寄附講座医師数	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	3

## ② 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

医師、看護師などの医療関係者やケアマネージャー、社会福祉士などの福祉関係者、保健師、市職員などの保健関係者など多数の参加を得た「白山・美杉顔の見える会」の開催や、消防団との合同開催による防災訓練等を通じて、地域住民の意識の向上や関係者の一体感の醸成に取り組んでいます。

また、地域の診療所や老人福祉施設等との連携を目指し、外来ホットラインを開設しました。外来看護師が24時間、直接、応対することで、相手方への安心感を提供するとともに、迅速かつ適切な医療の提供に取り組んでいます。

### ③ 予防医療

住民健診やがん検診、人間ドック等による予防医療に取り組むとともに、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識啓発の場として、健康教室や糖尿病教室、出前講座を実施するなど、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識啓発を図りながら、予防医療を推進しています。

### ④ 在宅療養支援

多職種連携の取組で築いた顔の見える関係を生かして、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導など、在宅医療の提供に取り組み、平成26年12月からは管理栄養士による訪問栄養指導を開始しています。

【訪問診療、訪問看護等件数】

(単位：件)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
訪問診療、訪問看護等件数	387	436	988	2,439	3,439	3,219	3,424

### ⑤ 救急医療

初期救急医療を担う医療機関として、24時間365日対応できる体制を維持するとともに、津市消防本部、白山消防署等の救急隊との定期的な合同勉強会の開催や白山消防署とのホットラインの活用など消防機関との連携強化を進めながら、救急患者の一層の受入れに対応できる取組を行っています。

【救急患者受入数】

(単位：件)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
救急患者受入数	754	989	1,163	946	1,036	1,065	1,182

## (2) 地域医療を担う人材の教育

### ① 家庭医の育成

家庭医の育成について、全国に先駆けて取り組んできた三重大学と連携し、当院をフィールドにした実践的な研修を行うなど、家庭医育成拠点施設として、初期研修医、後期研修医及び医学生の受入れに積極的に取り組んでいます。

【研修医等受入実績】

(単位：人)

	H23	H24	H25	H26
初期研修医	9	8	12	11
後期研修医	5	5	4	2
医学生	33	31	36	33

※後期研修医について、年度途中で交代があった場合は両者ともカウントしている。

## ② 看護師等の育成

地域看護の実践を通じて一人ひとりの意識の向上を図るとともに、三重大学や県立白山高校からの看護実習生の受入れを行っています。

また、家庭医療エキスパートナース講演会などを開催し、プライマリ・ケアや地域看護に関心を持つ看護師等の育成支援に取り組んでいます。

## (3) 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究

家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的で先進的な研究を行うため、カンファレンスや院内の「研究やろう会」の開催等を通じて職員一人ひとりの研究意欲を醸成するとともに、研究のための環境づくりに取り組んでいます。

## (4) 経常収支について

幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として家庭医療を提供した結果、平成22年度以降では、患者数の減少に伴って経常赤字を計上した平成24年度を除き、経常収支の黒字を達成しています。

## 2 今後の一志病院を取り巻く環境の変化について

### (1) 人口減少及び医療ニーズについて

一志病院が所在する白山・美杉地域は、高齢化の進展に伴い、人口減少が進んでいます。一方、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護者になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められるなど高齢者の在宅医療に対するニーズが高まっています。また、地域医療構想策定ガイドラインにおいても、今後の在宅医療等の医療需要の推計は、療養病床の入院患者数のうち、軽度（医療区分1）の患者数の70%を在宅医療等で対応する患者数として推計されることになっていることから、それらの医療需要を踏まえ医療提供体制を検討していくことが必要となっています。

したがって、高齢化率の高い白山・美杉地域の今後の医療ニーズとしては、在宅療養支援や救急医療等のニーズがますます高まってくると考えられ、現在、一志病院が取り組んでいる地域医療の様々な取組は、白山・美杉地域の将来の医療ニーズに十分に対応していくものと考えています。

### (2) 今後の家庭医（総合診療医）の育成について

家庭医（総合診療医）の育成については、現在の三重大学家庭医療学講座と密接に連携した取組に対して日本プライマリ・ケア学会など全国レベルでの評価が高まっており、他県から一志病院に勤務を希望する医師が多数いる状況になっています。

今後、さらに家庭医（総合診療医）を育成することで、医師不在診療所等への医師派遣など県内の医療過疎地域に対して貢献することは可能と考えています。

【参考】

- 一志病院の平成26年度の地区別患者数

●入院 (単位：%)					
津市					津市以外の 県内
白山	美杉	一志	左記以外	計	
41.0	39.3	11.8	5.7	<b>97.8</b>	1.3

  

●外来 (単位：%)					
津市					津市以外の 県内
白山	美杉	一志	左記以外	計	
45.2	43.1	3.8	2.6	<b>94.7</b>	1.8

※延べ患者数の割合

- 一志病院の病床利用率

(単位：%)						
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
一般病棟	68.8	75.8	71.5	59.2	77.6	73.3
全体 (※)	35.2	38.7	36.5	31.7	41.5	39.2

※休床を含む